

1. 基本的な考え方

- ① 感染防止策は基本的にオリンピック・パラリンピック共通であるが、パラアスリートについては、障がいの種別によっては必要となる感染防止策（ソーシャルディスタンスや手指衛生など）が困難なことがある。
- ② オリンピックでの感染防止策をベースに追加的に配慮すべき論点を具体化していく。
- ③ 基礎疾患を抱えるパラアスリートや呼吸機能が弱いパラアスリートに対しては、感染によって急速に重症化するリスクがあるとも言われていることを想定した準備が必要である。

2. 主な論点

障がいの種別によっては、アプリ等を用いた健康管理やその報告、手指消毒をはじめとする日常的な感染防止に必要な行動を一人で完結しえないパラアスリートもいるため、パラアスリート単独で「個人に着目した感染症対策」を徹底しえない状況が想定される。こうした状況を踏まえた対策が必要。

例：必要な消毒を行うことが難しい、ソーシャルディスタンスを知覚できない 等

今後、詳細はIPC, IF等とともに検討。

3. 具体的な対策の方向性

パラアスリートの一部は個人で感染防止行動を完結しえないことから、パラアスリートと一緒に行動するパラアスリート介助者をはじめとした様々な選手団内のスタッフ等による支援が不可欠であり、選手と近い距離で支援することを前提とした対策が必要となる。

そのため、NPCは選手団内でパラアスリートの感染防止行動を支援する体制を整備し、その取組状況を包括的に管理する責任者を置く。組織委員会はそのNPC責任者と関係者との間で情報を共有し、適切に対応する仕組みを具体的に検討する。また、専門家の意見も踏まえ障がい種別に応じた対応も検討。

※各NPC選手団内で感染防止行動を支援するスタッフ等は、濃厚接触を避けられないため、組織委員会は適切な支援方法を検討する。